

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には妥速詳細なる商況物價の報告あり

第三千三百七十九號
明治廿五年六月廿六日(己丑)
舊曆壬辰六月三日
日 山午後四時三十分
月 山午後五時三十分
年 山午後六時三十分
西曆一千八百九十二年

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にて詳細の商況物價報告あり其代價運送料廣告料は左の如し
一月(一月前金)五十五圓
三月(三月前金)一四十五圓
六月(六月前金)二七十五圓
一年(一年前金)五二十五圓
○本報發行所は東京市本町二丁目一丁目三十三番地
○本報の電話號碼は二五五番
○本報の郵便掛金は二五五番

時事新報廣告料(附定)

一、第一版(左側) 一日以上 一元
二、第二版(右側) 一日以上 一元
三、第三版(左側) 一日以上 一元
四、第四版(右側) 一日以上 一元
五、第五版(左側) 一日以上 一元
六、第六版(右側) 一日以上 一元
七、第七版(左側) 一日以上 一元
八、第八版(右側) 一日以上 一元
九、第九版(左側) 一日以上 一元
十、第十版(右側) 一日以上 一元

本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を撰選するより各社同一の記事を掲ぐるものと異ならず編輯時事新聞社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずとも世間往々此事を知らずして通信社に之を報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し爲めに行進むる生じたる場合も亦からざれば本社に記事論議を寄稿せんとする方は直接に本社に寄稿せらるるを請ふ

時事新報

内閣談

議會の閉會に引續き内閣に一變動ある可しとは何人も豫期する所にして事實に就て見るも現に内務大臣の空位ある上に次で司法大臣も亦辭職したり今の兼任は固より一時の急に應じたるまでの處置なれば何れ近日の中に多少の變動は免れざるもならん而して其變動は如何なる形に現はるや知る可らずと雖も我輩の想像を以てすれば大小緩急何れにしても實際の始末は頗る困難なりと云はざるを得ず先づ内閣の全體は今日の儘にして矢張り松方首相が之を主裁し萬一止むを得ざる一二の部分に更迭を行んか事體甚だ便宜にして今の内閣の爲めに謀れば誠に安全の計なれども扱その新大臣を撰ぶの一段に至りて少しく當惑せざるを得ず内閣の全體を今日の儘とあれば既に當る可きものは何れ第二流以下の政客にして然かも温順無爲、首相の旨に違はず他の閣員も折合も滑なる人物も最も適當ならん然れども此種の人物は内閣に向て無爲なる其代りに外に對して勢力なきが故に無事の日に依りて重きを成す能はず況して萬一の場合には頼み甲斐少かる可し然らば最初より現内閣と同主義の約束を固くして有爲活潑の人物を撰まんか喜んで約束を固く相違なしと雖も日本政治社會の習慣として既に一たび其地位を得るときは只管功名の念に切にして他を顧みずるに違わらず動もすれば規律を破りて振舞う一掃掃の手柄を専らにせんとするの恐なきに非ず徳義の高からざるに似たりとも年來の習慣として怪ざるが故に最初の約束は兎も角も現在の職權は云々なりとて其職權を擁護して威張り込めば夫までの事にして如何とも可らず或は一種の人物中には表面に一番槍を争はざるも内々身構を敏捷にし現内閣の運命も最早や云々なる可しと勘定するときは恰も敵に内應して内の秘密を漏らし又は他の手引を爲す等早く既に後日の地位を爲す

が如きものなきに非ず從來に往々見る所の例にして當局者の爲めに此上の不利はなかる可し温順無爲の人を撰ばんか、無氣無力にして頼むに足らず活潑有爲の人にせんか更に恐る可きものあるを如何せん内閣の全體は其儘にして第二流の中より補欠を求めんとするも其人撰は頗る困難にして之を決するも容易ならず須らく一考を要する所なる可し或は又内閣の全體は盡せざるも其更迭の部分には一二の老政客をして當らしむ可しとの説もあれども今の内閣を其儘にしては其折合なかく六ヶしかる可し元來老政客の人々は實際の技倆は兎も角も志は政府全體の經綸に在りて一部一局の事を以て自から甘んぜざるものなれば之をして其部局に當らしむるは恰も二目四股の人をして片目二股だけの働を爲さしむるものにして即ち其人を半身不隨の片輪者と爲すに異ならず其半身不隨は或は忍ぶ可しとするも内閣の中に斯る一種の病人を入るときは首相其人の働も自ら自由なるも能はずして遂には同じく半身不隨の症に罹らざるを得ず人間普通の心身を有しなから互に遠慮して半身不隨の態を杜ふは到底堪へ難き所にして此相談も先づ以て無駄なる可し左れば今の内閣の地位を其儘にして其部局に當る可き人撰の相談もあれば何れも困難にして到底結果もなかる可きが故に此處は寧ろ決斷して内閣全體を明渡すの覺悟は如何ある可きや今の内閣を明渡せばとて敢て民黨の手に渡すに非ず之を受取るものは必ず第一流の老政客なるが故に後の始末は安心なりとて斷然手を引き一切の責任を其人々に歸して姑く成行を見るも亦政治家の氣概なれども今の當局者の心情より云へば此難局を持餘すして他人に譲るとありては唯その地位の第二流なるのみならず實際の技倆も亦第二流たるの實を表白すると同様の始末なれば難局は如何程に難を極むるも男子の意氣地として之を明渡すの念はなきもならん況んや目下の局面は困難に相違なしと雖も其難を忍んで姑く忍耐すれば年を経るに隨ひ自然に古也を帯びて地位の固きを加へ所謂黒幕老政客との關係の如きも次第に薄らきて獨立を全ふるの望なきに非ざるをや明渡の決斷は到底覺束なしと云はざるを得ず右の如く想像し來れば今の内閣談は何れも困難にして何れを夫れと定め難し我輩は唯實際の成行を傍觀せんとするものなり

雜報

○金角江の船待ち(五)

土京若士但丁僅に於て 金角 江 漁
眠と云へる意情者も大抵程合を知りて居るものか何時も起きる頃には何のハツミにかフト眼の覺ゆるものなり眼覺めても直ぐ起きられぬ睡心の好さ、昨日今日の氣疲れも一夜の安眠に消えて無くなり又新らしく世に生れ出でたる氣持して何となく大膽になる、抑も睡氣は勉強の守神なるかドレ寝ても居られまいと洗水して椅子に倚れば土耳其總理衙門の殿めしき狀哉、早く

已に机上に在りフランシスより山田氏(書狀在中)書いてあらねどあるが如く信じ手早く封押切るに如何にも山田氏名宛にて三通の書狀あり眼は早くも郵便印紙の處に着きぬ一ツ宛改め見れば是はそも如何に三通日本東京より來れる書簡にして埃及邊の句ひも無き果ては凡そ半响許り
山田氏はホテルにて今かくと余が携へ行く手紙を待ち居るならんと思へば又此凶報を齎して再び心配の淵に押し沈むるに堪へず左ればとて止む可きにあらねば無情にも三通の郵便を持行き少し身構へしてドーメと云へば神ならぬ山田氏は喜ばし氣に一ツ宛讀下すと見る間に面色變りエー今時東京からの手紙が何の役に立つと怒の聲諸共に傍の壁にハツと打附けぬ、郵便何の罪かあると氣の毒半分余は口ずさみぬ
二人は直ぐに總理衙門に赴き外務大臣サイド、ハヤハに面會し今朝御送附下されたるは孰れも埃及よりの書面に非ざりき我々は最早策の出る所を知らず何分御高配を頼めば信切なる大臣は直に呼鈴を鳴らしたりフランシス并荷物捜査方に付厳格なる電報を書記に認めしめ即刻埃及政府に發したり返電明日來る可しとのみと雪中一輪の梅花、幸らい中にも願せし
外務省より埃及政府に電報を發したるは四月十四日なり十五日には朝まだきより總理衙門に詰め掛け退散時間迄待ち暮らせ返電來らず待たるも共待つ身にふるなどは好く云たものと今迄何通も繰返したるを又繰返しながら二人は早や氣力も抜けヒョロヒョロとして衙門を出でぬ其夜の夢見も悪く明けければ十六日定期の埃及船又亞歷山得より到る最早望の鯛も殆んど切れ果てし汽船會社に行く勇氣も無ければ若しも來ればぬかど落付て居られず此度は失望を先に立てし會社に至り先づ此所にて無いと云はれ總理衙門にて來ない云はれ終日打消の詞を聞かされて家に歸ればドーしたるが如く僕も居す明りも無くて無煙草吞むに火が無い氣に障る事はつかり、ア一世の中もツラない山田氏が云へば余も實に仕練がないとツツカリ云ひたり發電後三日にして埃及政府より返信なきは奇なるが如くなれども思へば故なきに非ず同政府は先づボルトサイドの從弟アントアイン、亞歷山得の姉妹ニコラスに照會しフランシス并荷物の在所を究めんとしたれば容易に知れず突留めたる所を返事せんとて斯く遷延するに非ざるか約東後四回の船陸續到り待つふも已に十日にして一片の書沙汰さへ無きより推す荷物は疑もなく災難に罹りたるが如し雪中の梅花、霞れたる春信を待ちわびたる甲斐もなく玉肌氷骨今や全く地に委し朔風雪を捲て天地暗燿たらんとす此夜山田氏は心大に決する所あるが如く余に語て曰く斯く成りて後何を申すも無益なれど初め小生が日本を出るに當り親戚朋友中大に此行を壯とし日土貿易の前途洋々たるを祝して深く此企に賛成し與れたる向もあれは是に至りて少く小生を親愛するのあまり却て反對するもの多かりき萬里の海を越えて様子分らず土耳其に行かずとも他にイクラも面白き事ある可し是迄幾人ぞなく土耳其を行き立ちて皆中止したるは隠なくして叶はじ編り人に先んじて彼所に赴くは愉快に似たれども冒險の事業とは實に是等を云ふものにて十に入九失敗を招き勝なり平に思ひ止まりてよと袖袂引かねばかりに願ひるを聞かず日土貿易の船となりて兼々臆病なる日本商

人を驚醒せん
配を後に殘し
或る哉聊かの
や奸奴の手は
與れたる人々
れたる人々へ
と本國に歸ら
て我身の失敗
る所なからん
めに筆を勢し
と余曰く諸
二箇の大
○異人會 合
協會あり會員
ら黒人種)に
さるべからず
するにあり本
に百二十名に
して曰く黒人
兩人種社會に
的は是等の惡
みとは互ひに
其人を愛し其
のなれば他人
ればとて聊か
人は多くは皆
ふの心なる
き爲め常に寺
會員たるもの
に熱心なる様
○無記名公債
とされる無記
銀行集會所に
も運附の資
へ建議して法
公債の運送は
方法を立てら
しからんと集
○紅茶試飲の
と當業者に示
驗を爲したる
二十三日京橋
外數名の茶業
二個を以て夫
縣製紅茶(波印
合等見本の支
過少き爲め尙
しが次に長崎
の製造せし並
末廿二年分二
試験したるに
見船入程にて
は並動と云ひ
して頗る低廉
出販するに
あらざるべし